

令和元年度 第1回 文化財保護委員会議録

日 時 令和元年7月1日(月) 13時30分～14時30分
場 所 恵庭市郷土資料館 研修室
出席者 伊藤委員 高橋委員 山田委員 岩渕委員 那須委員 山口委員 土屋委員
(事務局) 穂積教育長 竹内教育部長 中陳教育次長 原田郷土資料館長
村本総務担当主査 長町埋蔵文化財担当主査 大林資料館担当主査
傍聴者 0

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 教育長挨拶 <穂積教育長挨拶>

4. 自己紹介 <各委員及び事務局の自己紹介>

5. 議 題

(1) 委員長・副委員長の選任について

<委員長に山田委員を選任>

<副委員長に高橋委員を選任>

(2) その他

①文化財保護委員の職務について

事務局 <資料説明>

②令和元年度主な事業計画について

事務局 <資料説明>

< 質 疑 >

A 委員 ・郷土資料館事業について
星空観察会について
昨年は予定の何割実施できたのか。

事務局	8 回計画して、2 回しか実施できませんでした。
A 委員	去年は天気恵まれなかった。6 月の中旬くらいまでだったら雨なしで過ごせるが、これからは雨が多くなるのでそれが少し気になる。
B 委員	各分野にわたっていろいろ計画されていて、毎年、よくやっていると思う。学校事業と提携している活動がだんだん充実してきていることが目に見えてきている。「物語の中の民具展」と「宅配事業」とがリンクするよう形になっている。今の小学生の親御さんも知らないような資料を子どもたちを通じて親御さんに知らせるといふことにもなる。そういう役割にもなるので興味深く見ている。いろいろな情報を提供する場となっていきたい。
A 委員	放課後、子どもたちがこの郷土資料館を訪れる人数はどのくらいか。
事務局	ほとんどいません。ここは校区としては島松小学校ですが距離が少しありますので、なかなか来られないと思います。恵み野旭小学校は校区外ですが、郷土資料館には子どもたちだけで行ってよいことにはなっているようですが、あまり足が向かないようです。やはり、土日に保護者の方に連れてきていただくというケースが非常に多いです。
A 委員	私が以前いた開拓記念館では、すぐ近くの子どもの小学校 1 年生のときから放課後になったら来て、6 年生まで毎日自分の自由な時間になったら来るという子だった。中学校入学の際、「今日で小学校を卒業して中学校へ行くので今後は当分来れなくなります。」と言っていた。そういう子がいると、博物館を運営する側の人間としては「今日来てる。」と気に留めるようになった。ただ、今は放課後に校区外へ出るとなると、子どもたちに対しては制約が多いのかと思う。そういう面ではちょっとかわいそうな気もする。できればそういった子が増えればいいなと期待をしている。わたしが「どんぐり講座」という事業をやっていた時、自分で「どんぐり」の刺繍の入ったものを作って、「今まで何度もどんぐり講座に来ました。今日で最後ですのでこれを差し上げます。」と言って置いていってくれた子がいた。今でも私の机の前に飾っています。そういう子がたまにいた。将来、博物館関係に進むかというとは別だがいろんな思い出が残るだろう。そういったことを期待したい。
B 委員	子どもの動機付けは大事。きっかけが何かあれば子どもは関心をもってくれれば何よりだ。親御さんやおじいちゃん、おばあちゃんも関心を持って「おもしろい」といふことに気がついてくれれば恵庭は決して何もない街ではなくてこんなにいい物があって、その歴史の上にある。そして今は、「花のまち」、「文化都市」を目指すようになったということがわかっていけば、変わってくると

思う。今は子どもさんだけに「おいで」と言っても無理だと思う。いろいろな問題がありすぎて。その辺をもう少し何か工夫できればいいなといつも思っている。そういう意味では少しずつでもこういう風な地味な取り組みがいつか誰かに結びつくのではないかなと思う。

A 委員 そういう意味で郷土資料館の皆さんのご努力に期待したい。

C 委員 私は小学校にいて、実際にこの「ふるさと教育宅配事業」の恩恵を受けている方になる。今もちょうど巡回している最中で学校に飾ってあるが、本当に貴重な資料だと思いながらも、「触ってもいい」ということなので触っている。子どもたちも、私たちも見たこともないようなものが回って来たりする。子どもたちも手にとってみながら、昔の人が使ったんだねというような話をしながら見ている。4 回ほど回ってくるが本当に有難いと思う。先ほどお話が出ていたように、子ども直接ここに来るということは難しい。そういう意味では資料館の方から来ていただいているような、そういう感じで小学校 8 校を巡回させていただいているのは、素晴らしい事業だと思い、感謝している。

A 委員 北海道の話ではありませんが、博物館で特別養護老人ホームの一角にスペースを借りて、そこに資料を展示して時々変えるといった方法で展示資料を利用する事業をやっているところがあり、好評だった。そういった試みをあちこちでやるようになってきている。相手方があることだし、負担が増えますがそういったやり方もまた、考えられるかなと思う。そういう企画をされた方がその功績が認められて立教大学の博物館学講座の教員となられた例もある。もし、余裕ができたならそういったことも可能かなと考えられる。ご検討をお願いしたい。

- ・ 史跡カリンバ遺跡水文環境調査について
- ・ 埋蔵文化財の保護について

B 委員 水文環境調査が今年も継続になって良かったと思う。埋蔵文化財の保護についてだが、試掘調査箇所に恵庭公園近くの遺跡も入っているのか。

事務局 はい。ユカンボシ E1 遺跡は、恵庭公園のユカンボシ川源流部から下流側に 1km も行かないところです。

B 委員 あそこは遺跡が出ると思っていた。
今後の見通しをもう少し教えていただけるか。

事務局 ユカンボシ E1 遺跡では、試掘調査で7か所の穴から約600点の土器や石器が出土しました。これだけの数の遺物が出土する遺跡はあまりなく、ひじょうに濃い遺跡といえます。埋蔵文化財保護の観点から、現在地権者の方と協議をしているところです。来年度に発掘調査を実施する可能性もありますが、遺跡の内容が濃く、また周りは住宅密集地で空き地も見当たらないことから、プレハブや土置き場の確保なども含め難しい調査になると思われます。

D 委員 史跡カリンバ遺跡の北側に高校が建てられるとのことだが、工事によって地下水位が下がるといったことはないのか。

事務局 基本的に恵庭の地下水は盤尻の山の方から千歳川の方へ流れているので、高校が建てられても水位が減ることはないと考えております。むしろ水流が止まることによって水位が増える可能性も考えられます。それも含めて水文環境調査を継続していく必要があります。高校を建てる場所に関しては、昨年、試掘調査をさせていただいて遺跡はないことを確認しておりますが、その先の工法に関してはこちらから言及することはできません。水流の遮断に関しましては、地下を作るわけではないと思われるので今後は様子を見ていきたいと考えております。すでに盛土をしている状況なので、さほど地下深くに影響はないと思います。

A 委員 史跡カリンバ遺跡の水文調査で、今のところ水量の大きな変化は見られないのか。

事務局 昨年度、冬期間は2年前と比較して水量が減少していました。昨年は雪が少なかったのもそれと関連しているのではないかと報告をいただいておりますが、2年間の調査ではまだ何ともいえない状況で継続的な観測が必要と思われます。

6. その他

事務局 ありません。

7. 閉 会